

2005年度
関西学院大学ロースクール

一般入試（法学未修者）
特別入試

論文 1 問題

【日本語問題・英語問題】

- 日本語問題または英語問題のいずれか1題を選択し、
所定の解答用紙に解答すること
- 開始の指示があるまで内容を見てはいけません

【論文 1 ・ 日本語問題】

ロースクールを受験しようとしている「あなた」が、親戚のおじさんと話していたところ、次のように言われたと仮定します。この発言を読んで、設問に答えなさい。

あんた、法律家になりたいんだって。立派だねええ。

でもさ、法律勉強して真に受けて馬鹿になっちゃだめだよ。法律なんてのは、適当に無視しなくちゃ生きていけないのが庶民なんだって、分かってるよね。

売春防止法という法律があるそうだよ。売春は禁止されているそうだ。前に「うそだろ！」と思って友達に聞いたら、「何人も、売春をし、又はその相手方となつてはならない」なんて条文が確かにあるそうだ。けれども、日本で売春がされてることは誰でも知っているでしょ。男性向けの雑誌をめくってみれば、売春の広告や売春体験記が花盛りだよ。つまり、禁止されている法律があるのに、売春は行われているんだよ。何兆円産業になるのかなあ？

スピード違反や駐車違反もそうで、みんなしている。制限速度で走っている方が危ないぐらいだ。スピード違反なんか、160キロとか180キロが出せる性能の自動車を買っていることがおかしいといえればおかしいよね。道路以外のところ、たとえば競技場なんかで走ればいいというのかもしれないけど、そういうのは普通は屍理屈というのであって、道路以外で100キロ出した車なんていうのはほとんどないはずだよ。まあ、いうなれば、国は、法律を作って「法律は守りましょう」なんて言っているが、実際は本気で守らせるつもりはないということなんだ。まあ、ある会社が「うちの車は法律を守るため、またあなたの生命を守るために制限時速以上は出ないような技術開発をしました」って言って売り出しても、絶対売れないからさ。国もそれを強制しないし。そういえば、カーナビとか、なんだっけETCだっけ、自動的にいろいろ車と通信して料金とか支払いできるやつ、ああいうのができるんだからさ、当然そういうこともできるよね。国は、そんな技術開発なんかさせようともしてないもんね。適度に違反をしてもいいですよ、でもあんまり目立ちすぎないでね、という感じなんだよね。国は財政危機とか言ってるんだから、どんどん検挙したら儲かるだろうけれどねええ。ま、こちとら、厳しくしてもらおうと困るけどね。

そういえば、例の新興宗教のメンバーを捕まえる時には、みんなが無視しているような法律違反をしているとして摘発してたんじゃない？ よく知らないけど。あれもおかしいよね。どうか警察ににらまれることがありませんように！ 駐車違反やスピード違反なんかも、たまに捕まると、「どうして俺だけが」ということになるよね。まあ、いつどこで取り締まりをしているかの情報を集める努力をサボったことについて反省し、結局は、運が悪かったと諦めることになるけれどね。

こういうような法律はまだいいんだよね。こっちも適当にしているから。でも、困ることもある。

たとえば労働基準法なんて守られていないこともはなはだしい。サービス残業なんというのは日常茶飯事だし、有給休暇なんか消化することも怖くてできやしない。セクハラにしてもいっぱいある。みんな知っている。建設現場だってさ、元請や下請だって、まともに仕事してたら、こんな金額でこんな工期じゃできないこと知ってて孫請に押しつけてくるんだからさ。みんな分かってるの。手抜きしてるのをさ。

金の力を使って、無理を通すなんてのは、ごろごろしてるんだよ。ただ、みんな声をあげても結局自分が損をするから泣き寝入りしているだけ。力のない人間は、力のある人間たちに踏みにじられても、自分をもっと踏みにじられる危険を冒さないと助けを求めることすらできない。そういう風に世の中はできているんだよ。

もちろん、時々あんまり踏みにじられすぎると、「一寸の虫にも五分の魂」というやつで、怖いものがなくなって、時にはがんばろうという気にもなる。大学出の奴が「権利のためには闘争が必要なんだ」なんて言ってた。そういうご立派なたいそうなことを言われなくてもそんなことは当たり前なことなんだよね。

でも、実は、そうやってがんばるためにも金がいる。弁護士なんかも、「お金がなくても」っていうようなのもごく稀にいるけれどさ、普通は裁判の費用が払えないような連中は相手にしたくない。大体法律家なんて金持ちの遺産相続だとか大企業の顧問弁護士とかはやりたがるからね。そういえば、国際的な商売のための法律相談なんて儲かるんだろうねえ……。私ら関係ないもんね。あ、関係あるかもしれん。どっかでっかい組織にたてついたら、その顧問弁護士にいじめられるかもしれん。あんた、どうせなるならそういうことができないと金儲からんよ。いらんお世話だろうけどさ。

まあ、力のない人間は二重三重に馬鹿にされるようになっているんだよ。だいたい誰が馬鹿みたいに長い裁判している間の生活を支えてくれるんだよ。たとえ辞めさせられなくても、誰が今の職場でつまはじきにされていじめられるのを代わりに我慢してくれるんだよ。「手抜きがしたくないから工期が守れません」なんて言ってる誰が仕事くれるんだよ。そういえば例のなんとか冷蔵だって、悲惨だったじゃないか。内部告発したら結局自分に跳ね返ってくるんだよね。

ま、そんなもんなんだよ、世の中は。時々、若いのが熱くなって、「戦え」とか、「我慢するな」とかいうけれど、ま、他人事だもんね。だから、結局のところは、黙って、黙って、まあ、偉い人には逆らわず、適当におべっかを言ってお付き合いしておいて、同じように力のない人間の間で愚痴をぶつぶつ言いながらも、あんまりものを考えずに、正義感に燃えて熱くなったりせずに、賢く生きていくのが庶民の生き方なんだよ。そういうのが賢いわけ。法律は適度に無視して、まあ警察とかお上にはあまりおおっぴらにはたてつかず(でも別に尊敬してるわけでもないけどね)、賢く生きるの。それが庶民の知恵。分かった?!

法律勉強するのはいいけれど、あんまり真に受けちゃいけないよ。馬鹿になるからね。

<設問>

こう言ってからおじさんは、「ちょっと用があるから失礼!『貧乏暇なし』っていつてさ、忙しいんだよね!」と付け加えて行ってしまいました。ロースクールを受験しようとしている「あなた」は、このおじさんに対して、ちゃんと思うところを伝えたいと考え、手紙を書くことにしました。

「あなた」が、どのようにおじさんに応答するかを想定し、下記の点に注意してこの手紙を書いてください。

<注意>

1. 解答用紙を手紙用便箋と考えてください。
2. おじさんの名前は、必要な場合には、関 学（せきまなぶ）さんとしてください。
3. 手紙の最終部分（必ずしも最後の文でなくてよい）に以下の文を必ず挿入し、下線を引いてください。
「だから、私は、ロースクールに入学して法律を勉強し、将来は法律家になりたいと思っていますのです。」
4. ただし、単なる「志望理由書」を書くものではありませんから、「おじさん」の発言の主要な論点構造をきちんと踏まえた上で、どのように応答するかを考えてください。他方、「おじさん」が挙げている個々の事例の法律学的な分析を詳しく行ったとしてもそれ自体は加点されません。「おじさん」の基本的主張に対する応答としての説得力が重要なポイントとなります。